

Dual Language: Japanese/English

2020年10月2日
メットライフ生命保険株式会社

「老後を変える」全国47都道府県大調査2020 老後に対する備えの変化、新型コロナによる価値観の変化 生活充実度に関するシニア層の傾向

メットライフ生命保険株式会社(代表執行役 会長 社長 最高経営責任者 エリック・クラフェイン)は、全国47都道府県の20歳~79歳までの男女14,100人を対象に、「老後」に関する調査を実施し、その結果をお知らせします。

本調査は、2018年以降定点調査として実施しているもので、3回目となる2020年は、特に「老後に対する意識や備えの変化」「新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)拡大による価値観や意識の変化」などに焦点をあて、年代間や男女間での傾向の違いと、47都道府県別に結果をまとめました。

当社は、誰もが明るく豊かな老後を思い描くことができるよう「老後を変える」のテーマのもと、さまざまな取り組みを行っており、本調査はその一環として実施したものです。当社は、人生100年時代を迎えるといわれる日本において、多様化し急速に変化するお客さまのニーズを深く理解して商品やサービスに生かしながら、よりたしかな未来に向けて継続的な責任を果たすことを目指しています。

<全国版>

1. 老後に対する意識とその変化

- 14,100人のうち、8割以上(83.5%)が自らの老後に不安を感じている。60~70代のシニア層の不安度は前年比で4.8%高かった。
- 老後に対する不安要因は、お金や健康に加えて、全年代で「認知症」がトップ3に入った。60~70代では「健康」「認知症」「自身の介護」「お金」の順となった。
- 新型コロナにより、老後不安が増えたと感じた方は約半数(48.7%)。不安要因は、「お金」「健康」に次いで、20~30代では「仕事・学業」、40~50代では「両親の介護」、全年代平均では、「余暇の過ごし方」が老後への不安要因3位となった。
- 新型コロナにより、老後に対する考え方や価値観が変化したと回答した方が約3割(4,173人)。年代別では60~70代が34.2%と最も高く、変化した内容は60~70代では「健康への気遣い」「生活費の節約」「貯蓄意識の高まり」の順で、20~50代では年代が若くなるほど「貯蓄意識の高まり」の割合が高く、次いで「健康への気遣い」「生活費の節約」となった。

2. 老後への備え

- 老後の備えとなる金融資産を「計画的に貯めている」「計画的ではないが少しずつ貯めている」と回答した方は全体の61.4%。2018年(54.2%)、2019年(56.4%)と割合が高くなる傾向が見られた。
- 2020年は、前年比で「現在の保有金融資産額」がすべての年代で高くなった。「老後の備えに必要な金融資産と自らが想定する金額」は、全体平均で3,007万円(前年比+74万円)となり、特に20代と60代以上で200万円以上想定額が高い結果となった。
- 30代以上の約3割以上が資産運用をしていると回答。今後、資産運用意向がある方は全体の56.7%で、20~30代は約7割が資産運用意向ありという結果。
- 新型コロナにより、資産運用意向が高まったと回答した方は、全体の約2割(20.1%)。

3. 生活充実度の高いシニア層の充実要因

- 60～70 代(4,816 人)に対し、「今のご自身の生活充実度は何点(自己採点)ですか」と聞いたところ、平均が 68.7 点。そのうち平均点を超える 70 点以上の点数を付けた方は、「老後の備えとしての金融資産と資産運用」「健康意識の高さと運動」「生きがい(趣味、人とのつながり)」の 3 項目において、行動を起こしている傾向が高い。

<47 都道府県版>

調査の主要項目についてスコアの高かった都道府県は次の通りであった。

- 「老後に対する不安度」が高かったのは、福島県(92.6%)、石川県(88.7%)、北海道(88.5%)、秋田県(87.6%)、栃木県(87.2%)。
- 「新型コロナにより老後不安が増えた」と感じた方が多かったのは、長崎県(57.4%)、三重県(56.0%)、岐阜県(55.6%)、福島県(53.9%)、大分県(53.8%)。
- 「資産運用実施率」が高いのは、東京都(39.6%)、神奈川県(37.7%)、兵庫県(37.2%)、茨城県(35.5%)、京都府(35.2%)。
- 「資産運用意向」が高いのは、東京都(65.3%)、沖縄県(63.5%)、神奈川県(60.8%)、大阪府(60.1%)、滋賀県(59.6%)。
- 「シニア層の生活充実度」が高いのは、千葉県(73.7%)、熊本県(73.2%)、宮崎県(73.2%)、岩手県(72.7%)、石川県(72.4%)。

以上

<添付>

メットライフ生命 「老後を変える」全国 47 都道府県大調査

<目次>

調査結果

<全国版>

1. 老後に対する意識

- (1) 老後に対する不安度-----P.4
- (2) 老後に対する不安要因-----P.4
- (3) 新型コロナによる老後不安の変化-----P.5
- (4) 新型コロナによる考え方や価値観の変化-----P.6

2. 老後の金融資産と資産運用

- (1) 老後の備え-----P.7
- (2) 老後への資金準備意識とその変化の傾向-----P.8
- (3) 資産運用について-----P.9
- (4) 新型コロナによる資産運用意向の変化-----P.9
- (5) 老後のために備えている金融資産-----P.10
- (6) 金融機関、保険会社に求めること-----P.10

3. 生活充実度に関するシニア層の傾向

- (1) 老後の備えとしての金融資産と資産運用-----P.11
- (2) 健康意識と運動-----P.12
- (3) 生きがい(趣味、人とのつながり)-----P.12

<47都道府県版>-----P.13,14

調査概要

1. 調査対象: 全国 47 都道府県に在住(調査実査時点)の 20 歳~79 歳の男女を、各都道府県で性年代別に各 30 人ずつ(60 歳~79 歳は合算)合計 14,100 人
2. 調査方法: インターネット調査
3. 調査数: 14,100 人
4. 調査時期: 2020 年 8 月 8 日(土)~8 月 17 日(月)

※スコアは集計時に各都道府県の性年代の人口動態の構成比に合わせて、ウェイトバック集計を行っています。
※集計データの構成比(%)は小数点第 2 位以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%にならない場合があります。

※提示しているスコアについては、四捨五入の関係上、足し引きした場合に数値が増減する場合があります。

<全国版>

1. 老後に対する意識

(1) 老後に対する不安度

「自らの老後について不安を感じるか」と質問したところ、全体（14,100人）の8割以上（83.5%）が「不安がある・やや不安がある」と回答。年代別では、40代が最も高い（89.7%）傾向が見られ、この傾向は2018年と2019年でも同様であった。また、前年比を見ると、60～70代のシニア層の不安度が+4.8%となり、他の年代より高い傾向が見られた。

（表1）自らの老後について不安を感じるか

	「老後への不安」ある+ややある			
	2018年	2019年	2020年	(前年比)
全体(n=14100)	81.7%	81.5%	83.5%	2.0%
20代(n=1859)	83.1%	84.1%	84.1%	0.0%
30代(n=2344)	86.2%	86.8%	85.1%	-1.7%
40代(n=2762)	87.6%	87.1%	89.7%	2.6%
50代(n=2319)	85.9%	86.9%	87.5%	0.6%
60～70代(n=4816)	73.6%	72.1%	76.9%	4.8%

(2) 老後に対する不安要因

老後に対する不安要因は、お金や健康に加えて、全年代で「認知症」がトップ3に入った。30代と40代でもお金や健康に次いで認知症が高く、前年と比較しても順位が高かった。60～70代では「健康」「認知症」「自身の介護」「お金」の順となった。（表2）。

（表2）老後に対する不安要因（複数回答）

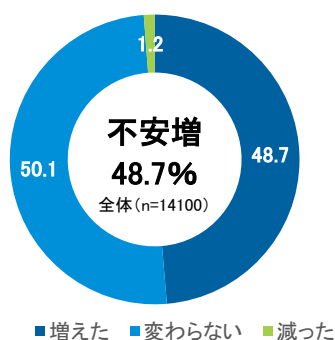
	全体 (n=14100)		20代 (n=1859)		30代 (n=2344)		40代 (n=2762)		50代 (n=2319)		60～70代 (n=4816)	
	2019年	2020年	2019年	2020年	2019年	2020年	2019年	2020年	2019年	2020年	2019年	2020年
1位	お金 (60.9%)	お金 (60.0%)	お金	お金	お金	お金	お金	お金	お金	お金	健康	健康
2位	健康 (55.7%)	健康 (55.5%)	認知症	認知症	健康	健康	健康	健康	健康	健康	認知症	認知症
3位	認知症 (48.6%)	認知症 (52.1%)	健康	健康	両親の 介護	認知症	自身の 介護	認知症	認知症	認知症	自身の 介護	自身の 介護
4位	自身の 介護 (46.7%)	自身の 介護 (47.1%)	両親の 介護	両親の 介護	認知症	両親の 介護	両親の 介護	自身の 介護	自身の 介護	自身の 介護	お金	お金
5位	両親の 介護 (34.4%)	両親の 介護 (33.6%)	自身の 介護	自身の 介護	自身の 介護	自身の 介護	認知症	両親の 介護	両親の 介護	両親の 介護	配偶者の 介護	配偶者の 介護

(3) 新型コロナによる老後不安の変化

「新型コロナによる影響で、老後不安に変化があったか」を聞くと、約半数が「不安が増えた」(48.7%)と回答(表 3-1)。

また、「新型コロナの影響で老後に対し新たに不安に感じること」を聞くと、お金や健康に次いで、20～30代では「仕事・学業」が3番目となり、40～50代では「両親の介護」が3番目となった。全年代平均では、「余暇の過ごし方」がお金と健康への不安に次いで高く、新型コロナによる影響で不安を感じる方が多い傾向が見られた(表 3-2)。

(表 3-1) 新型コロナの影響による老後の不安の変化



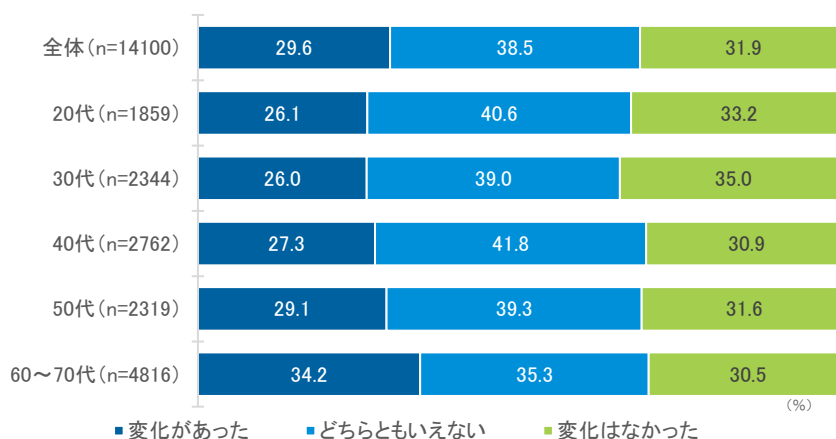
(表 3-2) 新型コロナの影響で老後に新たに不安を感じること (複数回答)

	全体 (n=14100)		20代 (n=1859)		30代 (n=2344)		40代 (n=2762)		50代 (n=2319)		60～70代 (n=4816)	
1位	お金	33.6%	お金	34.8%	お金	37.9%	お金	38.3%	お金	36.6%	健康	41.2%
2位	健康	32.3%	健康	23.0%	健康	25.1%	健康	28.0%	健康	33.9%	お金	26.9%
3位	余暇の 過ごし方	13.8%	仕事・学業	12.9%	仕事・学業	12.9%	両親の 介護	14.4%	両親の 介護	15.8%	自分の 介護	17.0%
4位	自分の 介護	12.3%	余暇の 過ごし方	12.4%	友だち つきあい	12.3%	仕事・学業	13.4%	余暇の 過ごし方	13.3%	余暇の 過ごし方	17.0%
5位	認知症	11.2%	友だち つきあい	9.5%	両親の 介護	11.5%	余暇の 過ごし方	11.8%	自分の 介護	12.6%	認知症	14.4%

(4) 新型コロナによる老後への考え方や価値観の変化

「新型コロナにより、老後に対する考え方や価値観に変化があったか」を聞いたところ、全年代平均では約3割が「変化があった(29.6%)」と回答。年代別では60～70代が34.2%と最も高い結果となった(表4)。

(表4) 新型コロナの影響による老後に対する考え方や価値観の変化



変化があったと回答した方(4,173人)に、その変化の内容を聞くと、60～70代では「健康への気遣い」次いで「生活費の節約」「貯蓄意識の高まり」という結果であった。20～50代では年代が若くなるほど「貯蓄意識の高まり」が高い傾向が見られ、次いで「健康への気遣い」「生活費の節約」の順であった。20～40代の傾向として「資産運用意向の高まり」が見られ、50～70代の傾向としては「老後の過ごし方をイメージするようになった」という結果であった。

また、全年代の平均では、「自宅での趣味を持つ」が4番目に高い結果となった。

(表5) 新型コロナの影響で、老後に対する考え方や価値観の変化の内容 (複数回答)

	全体 (n=4173)		20代 (n=486)		30代 (n=610)		40代 (n=754)		50代 (n=675)		60～70代 (n=1649)	
1位	貯蓄意識の高まり	52.8%	貯蓄意識の高まり	73.4%	貯蓄意識の高まり	68.6%	貯蓄意識の高まり	68.0%	貯蓄意識の高まり	56.5%	健康への気遣い	67.2%
2位	健康への気遣い	51.6%	健康への気遣い	35.5%	健康への気遣い	38.6%	健康への気遣い	40.7%	健康への気遣い	48.8%	生活費の節約	41.9%
3位	生活費の節約	39.6%	生活費の節約	32.7%	生活費の節約	38.1%	生活費の節約	40.1%	生活費の節約	39.9%	貯蓄意識の高まり	32.5%
4位	自宅での趣味を持つ	24.0%	資産運用意向の高まり	25.3%	資産運用意向の高まり	33.2%	資産運用意向の高まり	19.3%	自宅での趣味を持つ	21.2%	自宅での趣味を持つ	27.4%
5位	老後の過ごし方をイメージ	20.6%	自宅での趣味を持つ	20.9%	自宅での趣味を持つ	26.8%	自宅での趣味を持つ	18.5%	老後の過ごし方をイメージ	21.1%	老後の過ごし方をイメージ	24.3%

貯蓄意識の高まり: 老後に備えて、貯蓄しようと思った
 健康への気遣い: 老後に備えて、健康に気を使うようになった
 生活費の節約: 老後に備えて、生活費を節約している

2. 老後の金融資産と資産運用

(1) 老後の備え

老後の備えとなる金融資産を「計画的に貯めている」「計画的ではないが少しずつ貯めている」と回答した方は全体の 61.4%。経年で見ると、2018 年(54.2%)、2019 年(56.4%)と割合が高くなっている。年代別に見ると、全年代で 2018 年、2019 年と比べて高い傾向があり、特に 50 代では 2018 年比で 10%以上高くなり、老後への備えの行動化が見られた(表 6)。

(表 6) 老後の備え

	「計画的に貯めている」+ 「計画的ではないが、少しずつ貯めている」				
	2018年	2019年	2020年	(2018年比)	(2019年比)
全体(n=14100)	54.2%	56.4%	61.4%	7.2%	5.0%
20代(n=1859)	49.7%	48.8%	54.1%	4.4%	5.3%
30代(n=2344)	55.9%	58.6%	63.3%	7.4%	4.7%
40代(n=2762)	52.9%	56.1%	58.3%	5.4%	2.2%
50代(n=2319)	51.8%	56.7%	62.0%	10.2%	5.3%
60～70代(n=4816)	57.2%	58.3%	64.8%	7.6%	6.5%

※不動産・土地等の資産は除き、金融資産のみお答えください。
 ※金融資産には生命保険・共済の保険商品も含まれます。

(2) 老後への資金準備意識とその変化の傾向

20～70代までのすべての年代において、「老後の備えに必要な金融資産と自らが想定する金額」と、「現在の保有金融資産額」の差があり、年代や保有している金融資産額に関わらず、金融資産が不足しているという意識傾向があった(表 7-1 は平均値、表 7-2 は中央値)。

2019年の調査結果と比較すると、「現在の保有金融資産額」はどの年代も増えている。「老後の備えに必要な金融資産と自らが想定する金額」は、20代と60～70代は前年比で200万円以上高く想定されており、全体平均では3,007万円(前年比+74万円)という結果であった(表 7-3 平均値)。

(表 7-1)

現在の保有金融資産額と、
老後の備えに必要な金融資産と自らが想定する金額
ギャップ/平均値

現在の保有金融資産額 (万円)	老後の備えに必要な金融資産と 自らが想定している金額 (万円)	差額 (万円)
全体(n=14001)	3,007	-1,850
20代(n=1848)	2,673	-2,287
30代(n=2338)	2,883	-2,316
40代(n=2751)	3,015	-2,160
50代(n=2314)	3,028	-1,855
60-70代(n=4750)	3,184	-1,267

※金融資産のみで不動産、土地は除く
※異常値は外して集計

(表 7-2)

現在の保有金融資産額と、
老後の備えに必要な金融資産と自らが想定する金額
ギャップ/中央値

現在の保有金融資産額 (万円)	老後の備えに必要な金融資産と 自らが想定している金額 (万円)	差額 (万円)
全体(n=14001)	2,000	-1,600
20代(n=1848)	2,000	-1,900
30代(n=2338)	2,000	-1,800
40代(n=2751)	2,000	-1,700
50代(n=2314)	2,000	-1,500
60-70代(n=4750)	2,000	-1,000

※金融資産のみで不動産、土地は除く
※異常値は外して集計

(表 7-3) 現在の保有金融資産額と、老後の備えに必要な金融資産と自らが想定する金額、ギャップ/平均値
(2020年対2019年比)

	現在の保有金融資産 (万円)				老後の備えに必要な金融資産と 自らが想定する金額 (万円)				差額 (万円)	
	2019年ベース 2020年ベース	2019年	2020年	2020年対 2019年比	2019年ベース 2020年ベース	2019年	2020年	2020年対 2019年比	2019年	2020年
全体	n=14100 n=14001	1,003	1,158	+155	n=13994 n=13830	2,933	3,007	+74	-1,930	-1,850
20代	n=1859 n=1848	227	385	+158	n=1830 n=1824	2,415	2,673	+258	-2,188	-2,287
30代	n=2344 n=2338	539	567	+28	n=2324 n=2313	3,083	2,883	-200	-2,544	-2,316
40代	n=2762 n=2751	718	855	+137	n=2741 n=2703	3,009	3,015	+6	-2,291	-2,160
50代	n=2319 n=2314	1,113	1,174	+61	n=2204 n=2273	3,069	3,028	-41	-1,956	-1,855
60-70代	n=4816 n=4750	1,639	1,916	+277	n=4795 n=4718	2,950	3,184	+234	-1,311	-1,267

※金融資産のみで不動産、土地は除く
※異常値は外して集計

(3) 資産運用について

「資産運用をしている」と回答した方は、全体の 32.6%で、2018 年(28.1%)、2019 年(30.5%)と、実施していると回答した方の割合が経年で増えている傾向が見られた。年代別では、30 代以上は約 3 割以上が資産運用をしているという結果になった(表 8-1)。

また、「今後の資産運用意向がある」「したい」「ややしたい」と回答した方は、全体の 56.7%で、年代別では 20~30 代が約 7 割と高くなった(表 8-2)。特に、資産運用について「したい」、「ややしたい」と答えた 20 代は、2018 年(49.0%)、2019 年(59.7%)、2020 年(67.2%)と過去 3 年で大きく増えている。

(表 8-1) 資産運用実施率

資産運用実施率	2018年	2019年	2020年	前年差
全体(n=14100)	28.1%	30.5%	32.6%	2.1%
20代(n=1859)	16.5%	18.5%	22.0%	3.5%
30代(n=2344)	26.4%	28.2%	31.8%	3.6%
40代(n=2762)	27.1%	31.3%	30.9%	-0.4%
50代(n=2319)	28.0%	30.6%	31.0%	0.4%
60~70代(n=4816)	34.0%	35.7%	38.9%	3.2%

(表 8-2) 今後の資産運用意向

資産運用意向	2018年	2019年	2020年	前年差
全体(n=14100)	47.5%	51.0%	56.7%	5.7%
20代(n=1859)	49.0%	59.7%	67.2%	7.5%
30代(n=2344)	57.8%	63.1%	69.2%	6.1%
40代(n=2762)	51.9%	56.7%	60.9%	4.2%
50代(n=2319)	45.4%	48.9%	54.7%	5.8%
60~70代(n=4816)	40.4%	39.6%	45.2%	5.6%

(4) 新型コロナによる資産運用意向の変化

「新型コロナの影響で、資産運用意向が高まった」と回答した方は、全体の約 2 割(20.1%)となった。年代別では 20~30 代が 30%以上で、他の年代より高かった(表 9)。

(表 9) 新型コロナの影響で資産運用意向が高まった

	資産運用したい
全体(n=14100)	20.1%
20代(n=1859)	31.6%
30代(n=2344)	30.4%
40代(n=2762)	22.4%
50代(n=2319)	17.1%
60~70代(n=4816)	10.8%

(5) 老後のために備えている金融資産

老後に備えている金融資産の種類は(表 10)、「預貯金」が 75.0%と最も高く、次いで「株式」(27.3%)、「貯蓄性のある保険」(24.6%)、「投資信託・ETF」(22.4%)、「個人型確定拠出年金」(15.7%)の順となった。

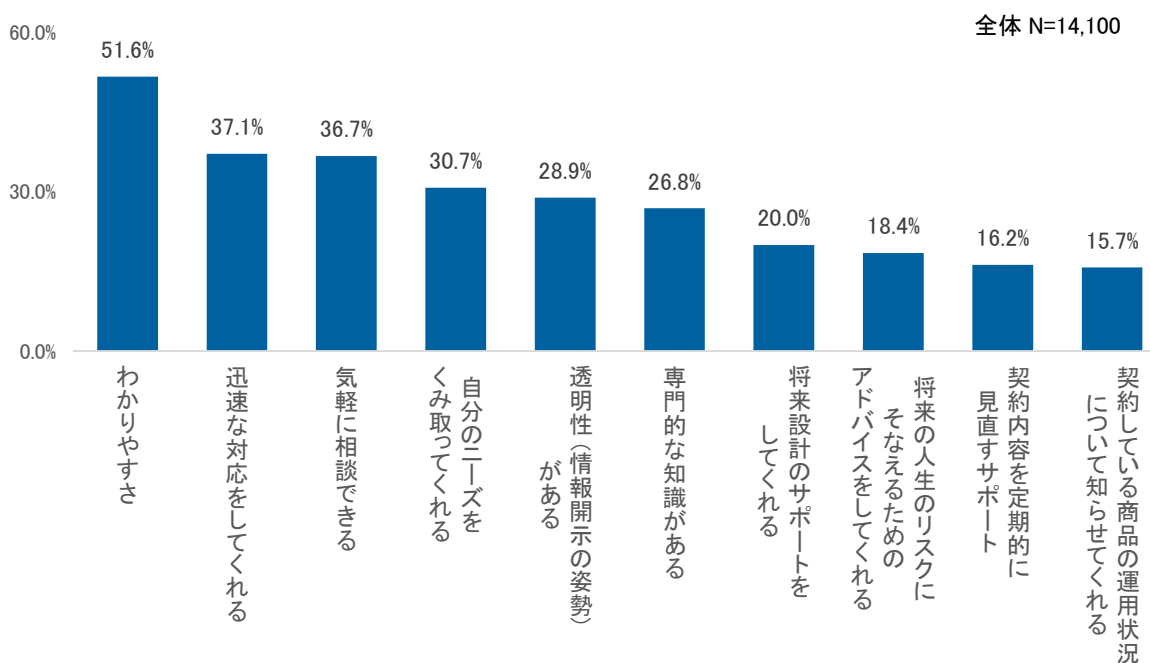
(表 10) 老後の備えに利用している金融資産(複数回答)

老後の備えをしている (n=8657)		20代 (n=1006)		30代 (n=1483)		40代 (n=1611)		50代 (n=1437)		60~70代 (n=3120)	
預貯金	75.0%	預貯金	60.2%	預貯金	66.3%	預貯金	73.6%	預貯金	76.4%	預貯金	83.9%
株式	27.3%	株式	18.2%	貯蓄性のある保険	27.8%	株式	26.8%	株式	26.8%	株式	33.5%
貯蓄性のある保険	24.6%	個人型確定拠出年金	17.2%	投資信託・ETF	24.1%	貯蓄性のある保険	24.9%	貯蓄性のある保険	26.4%	投資信託・ETF	25.3%
投資信託・ETF	22.4%	投資信託・ETF	16.7%	個人型確定拠出年金	22.3%	投資信託・ETF	20.6%	投資信託・ETF	20.1%	貯蓄性のある保険	24.7%
個人型確定拠出年金	15.7%	貯蓄性のある保険	16.2%	株式	21.3%	個人型確定拠出年金	20.5%	個人型確定拠出年金	17.1%	個人型確定拠出年金	8.9%

(6) 金融機関、保険会社に求めること

「老後の備えについて、金融機関(銀行、証券、保険)にどのようなことを求めるか」を聞いたところ、「わかりやすさ」が最も高く51.6%、次いで「迅速な対応をしてくれる」「気軽に相談できる」が上位となった(表 11)。

(表 11) 金融機関に求めること(複数回答) 上位 10 項目



老後の備えとして必要な金額やその備え方は経済環境や個々人の状況によって異なるが、保有金融資産額や資産運用実施率が増加しており、老後に備える行動を起こした方が増えている傾向が見られた。また、金融機関などの専門的な知識に基づくアドバイスを受けるなど、現状や自らに合った備え方を知ることを望んでいる方が一定数いると考えられる。

3. 生活充実度に関するシニア層の傾向

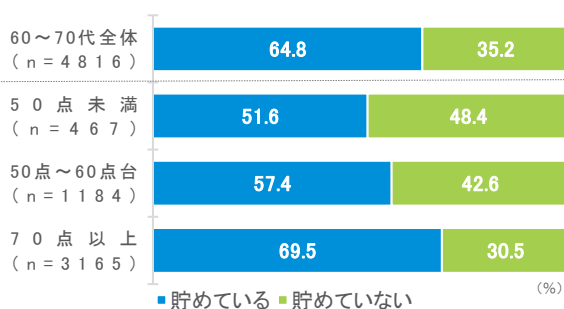
60～70代(4,816人)に対し、「今のご自身の生活充実度は何点(自己採点)ですか」と聞いたところ、平均が68.7点であった。

そのうち平均点を超える70点以上を付けた方の傾向を本調査結果から分析したところ、「老後の備えとしての金融資産と資産運用」、「健康意識の高さと運動」、「生きがい(趣味、人とのつながり)」の3項目において、行動を起こしている傾向が高かった。

(1) 老後の備えとしての金融資産と資産運用

生活充実度が70点以上のシニア層は、老後の備えとしての金融資産を69.5%が「貯めている」のに対し、生活充実度50点未満のシニア層は51.6%となり、約18%の差が見られた(表12)。

(表12) 老後の備えとしての金融資産



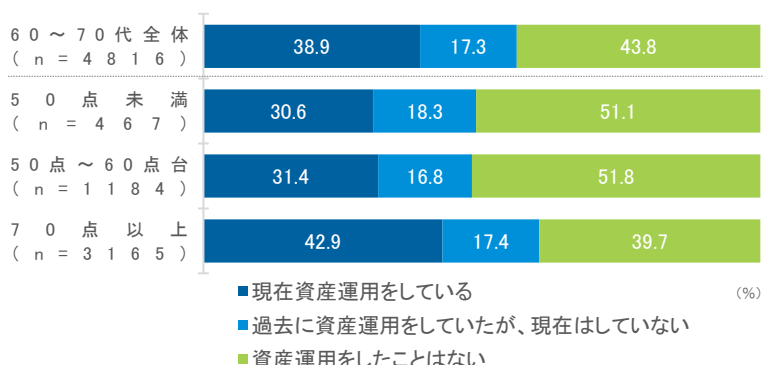
「現在の保有金融資産額」を見ると、生活充実度70点以上の方の平均値は2,131万円。50点未満の方が1,286万円となり、800万円以上の差があった(表13)。また、資産運用の実施率は、70点以上のシニアは42.9%、生活充実度50点未満のシニア30.6%で、10%以上の差があった(表14)。生活充実度が高いシニアほど、老後に向けて貯蓄があり、資産運用額も高い傾向がみられている。

(表13) 老後の備えとして十分な金融資産と自ら想定している金額と現在の保有金融資産額、差額/平均値

	現在の保有金融資産額 (万円)	老後の備えに必要な金融資産と自ら想定している金額 (万円)	差額 (万円)
60～70代全体	n=4750, 1,916	n=4718, 3,184	1,267
充実度50点未満	n=457, 1,286	n=455, 3,891	2,605
充実度50点台～60点台	n=1169, 1,588	n=1166, 2,956	1,367
充実度70点以上	n=3123, 2,131	n=3097, 3,165	1,034

※金融資産のみで不動産、土地は除く
 ※異常値は外して集計

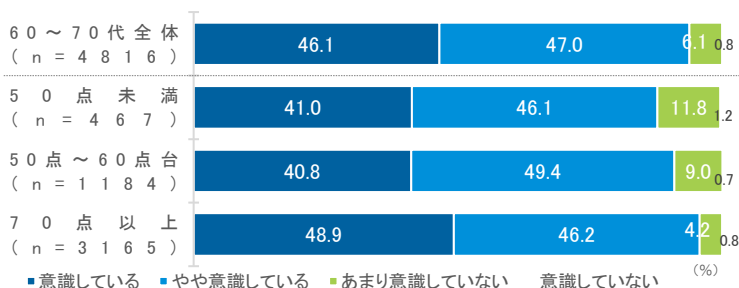
(表14) 資産運用状況



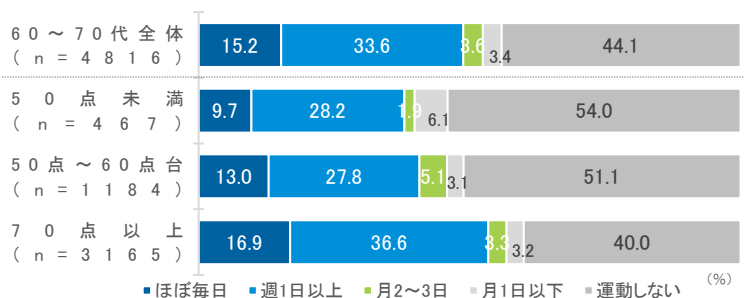
(2)健康意識と運動

生活充実度が70点以上のシニア層の方のうち、「健康について意識している」と回答した方が48.9%であり、50点未満のシニア層(41.0%)より高かった(表15)。また、70点以上のシニア層は、運動を「ほぼ毎日する」と回答した方が16.9%、「週1日以上する」と回答した方が36.6%となり、50点未満のシニア層と比べて運動の頻度が高い傾向が見られた(表16)。

(表15) 健康意識の高さ



(表16) 運動の頻度



(3)生きがい(趣味、人とのつながり)

生活充実度が70点以上のシニア層は、趣味の数が平均4.0個で、50点未満のシニア層の平均2.8個より高い結果となった。また、「一生付き合える友人がいる」と回答した方は、70点以上のシニア層では65.7%で、50点未満のシニア層(44.5%)と比べると20%以上高かった(表17)。趣味や人とのつながりが、生活充実度を実感する行動の一つである傾向が見られる結果となった。

(表17) 趣味の数、一生つき合える友人の有無

	趣味の数 (個)	一生の友がいる (%)
充実度50点未満(n=467)	2.8個	44.5%
充実度50点台～60点台(n=1184)	3.2個	54.8%
充実度70点以上(n=3165)	4.0個	65.7%

<47都道府県版>

全国版で取り上げた主要項目に関し47都道府県のうちスコアの高かった都道府県5つを取り上げると、以下の(表18)の結果となった(全47都道府県の結果は次ページ)。

- 「老後に対する不安度」が高かったのは、福島県(92.6%)、石川県(88.7%)、北海道(88.5%)、秋田県(87.6%)、栃木県(87.2%)。
- 「新型コロナにより老後不安が増えた」と感じた方が多かったのは、長崎県(57.4%)、三重県(56.0%)、岐阜県(55.6%)、福島県(53.9%)、大分県(53.8%)。
- 「資産運用実施率」が高いのは、東京都(39.6%)、神奈川県(37.7%)、兵庫県(37.2%)、茨城県(35.5%)、京都府(35.2%)。
- 「資産運用意向」が高いのは、東京都(65.3%)、沖縄県(63.5%)、神奈川県(60.8%)、大阪府(60.1%)、滋賀県(59.6%)。
- 「シニア層の生活充実度」が高いのは、千葉県(73.7%)、熊本県(73.2%)、宮崎県(73.2%)、岩手県(72.7%)、石川県(72.4%)。

(表18) 項目別47都道府県の傾向

	老後不安がある (%)		新型コロナで老後不安が増大 (%)		老後資金を貯めている (%)		※差額の降順	現在の保有金融資産額 (万円)	老後の備え必要資産額 (万円)	差額 (万円)
	全体	83.5	全体	48.7	全体	61.4				
1	福島県	92.6	長崎県	57.4	京都府	68.7	栃木県	940	3,512	-2,573
2	石川県	88.7	三重県	56.0	岐阜県	67.6	神奈川県	1,296	3,576	-2,280
3	北海道	88.5	岐阜県	55.6	埼玉県	67.4	千葉県	1,292	3,565	-2,274
4	秋田県	87.6	福島県	53.9	長野県	67.0	滋賀県	1,569	3,705	-2,136
5	栃木県	87.2	大分県	53.8	滋賀県	66.0	熊本県	919	3,029	-2,109

	資産運用実施率 (%)		資産運用意向 (%)		シニアの生活充実度 (点)	
	全体	32.6	全体	56.7	全体	68.7
1	東京都	39.6	東京都	65.3	千葉県	73.7
2	神奈川県	37.7	沖縄県	63.5	熊本県	73.2
3	兵庫県	37.2	神奈川県	60.8	宮崎県	73.2
4	茨城県	35.5	大阪府	60.1	岩手県	72.7
5	京都府	35.2	滋賀県	59.6	石川県	72.4

※シニアの生活充実度は60~70代のデータのみ

(表 19) 調査主要項目に対する 47 都道府県の結果

		老後不安 がある (%)	新型コロナ で老後不安 が増大(%)	老後資金を 貯めている (%)	現在の 預貯金 (万円)	老後に必要 な金額 (万円)	差額 (万円)	資産運用 実践率 (%)	資産運用 意向 (%)	シニアの 生活充実度 (点)
14100	全体	83.5	48.7	61.4	1,158	3,007	-1,850	32.6	56.7	68.7
606	北海道	88.5	49.4	58.0	988	2,939	-1,950	25.7	51.6	66.4
145	青森県	85.1	47.5	55.2	794	2,497	-1,704	24.1	48.8	69.6
140	岩手県	84.1	50.4	55.3	1,180	2,554	-1,375	26.5	56.2	72.7
255	宮城県	83.4	47.9	54.0	849	2,631	-1,782	24.2	53.1	71.6
112	秋田県	87.6	47.8	54.9	720	2,053	-1,333	21.2	43.1	64.0
121	山形県	86.6	48.4	59.9	1,097	2,290	-1,193	30.8	55.2	69.9
209	福島県	92.6	53.9	57.9	954	2,640	-1,686	26.4	52.5	63.8
325	茨城県	81.8	50.6	57.9	1,090	2,843	-1,753	35.5	55.9	65.6
221	栃木県	87.2	52.3	56.3	940	3,512	-2,573	29.6	54.2	64.2
217	群馬県	86.6	47.3	61.0	858	2,787	-1,929	32.0	52.3	68.8
829	埼玉県	82.0	46.1	67.4	1,278	3,084	-1,806	33.5	56.7	69.7
703	千葉県	83.9	47.3	59.7	1,292	3,565	-2,274	33.9	55.1	73.7
1550	東京都	80.6	42.5	62.4	1,465	3,293	-1,828	39.6	65.3	67.2
1036	神奈川県	80.0	48.5	60.9	1,296	3,576	-2,280	37.7	60.8	69.8
252	新潟県	83.2	43.9	62.0	916	2,569	-1,653	26.4	50.8	65.6
117	富山県	85.1	48.3	61.9	1,041	2,936	-1,894	33.9	54.1	62.3
125	石川県	88.7	51.1	62.6	1,153	2,716	-1,563	32.6	56.9	72.4
84	福井県	82.4	45.7	58.6	1,042	2,516	-1,474	32.7	55.0	70.8
91	山梨県	83.9	52.8	60.2	1,279	2,850	-1,571	29.4	54.7	67.3
225	長野県	86.6	51.1	67.0	1,096	2,653	-1,557	31.4	56.0	68.5
223	岐阜県	86.4	55.6	67.6	1,150	3,016	-1,865	30.2	51.4	69.2
409	静岡県	80.6	49.4	61.2	1,211	2,464	-1,253	29.1	54.8	67.8
832	愛知県	84.2	47.8	61.4	1,457	3,262	-1,805	34.4	57.2	65.9
199	三重県	86.7	56.0	64.6	1,017	2,778	-1,761	31.5	52.1	69.5
154	滋賀県	81.0	46.1	66.0	1,569	3,705	-2,136	35.2	59.6	70.9
287	京都府	81.1	51.9	68.7	1,182	2,926	-1,743	35.2	56.9	71.7
992	大阪府	82.1	53.4	62.2	1,000	3,059	-2,059	34.1	60.1	70.2
611	兵庫県	84.2	46.7	65.3	1,370	3,364	-1,994	37.2	58.3	72.3
151	奈良県	79.0	48.2	59.6	1,293	3,049	-1,756	34.6	53.6	71.5
106	和歌山県	82.6	43.2	65.2	1,067	2,647	-1,579	31.9	53.3	69.6
61	鳥取県	83.6	43.6	55.7	933	2,507	-1,575	27.4	53.7	66.5
73	島根県	84.5	50.1	63.1	1,116	2,864	-1,747	28.3	52.5	66.6
206	岡山県	84.6	47.1	57.6	861	2,573	-1,712	32.3	56.3	68.9
310	広島県	82.8	52.6	61.6	1,075	2,902	-1,827	33.2	56.1	67.2
153	山口県	81.7	45.4	62.3	1,020	2,693	-1,674	27.9	48.0	66.7
82	徳島県	81.3	49.7	60.0	886	2,395	-1,509	32.5	54.2	69.3
105	香川県	84.2	43.6	62.1	1,127	3,063	-1,936	31.4	57.8	70.1
149	愛媛県	84.1	49.6	56.8	1,000	2,568	-1,567	30.3	51.1	71.5
78	高知県	85.3	47.7	58.7	1,079	2,892	-1,813	32.1	52.1	68.1
559	福岡県	86.3	52.5	60.7	1,105	2,748	-1,643	29.4	52.5	64.1
89	佐賀県	82.0	47.7	60.2	772	2,446	-1,674	28.1	56.9	65.0
148	長崎県	85.0	57.4	60.1	864	2,310	-1,446	30.2	52.6	66.6
191	熊本県	86.4	46.1	59.9	919	3,029	-2,109	32.0	59.3	73.2
126	大分県	85.0	53.8	58.0	821	2,429	-1,609	23.6	54.4	68.4
118	宮崎県	83.5	53.1	54.9	699	2,235	-1,536	23.9	51.4	73.2
174	鹿児島県	84.1	49.7	63.3	728	2,612	-1,885	22.8	54.2	69.7
151	沖縄県	83.4	51.5	54.8	799	2,531	-1,732	24.7	63.5	72.0

※シニアの生活充実度は 60~70 代のデータのみ

「老後を変える」取り組み

当社は「老後を変える」というテーマのもと、健康で豊かな老後を過ごせること、また誰もが明るく豊かな老後を思い描くことができることを目指しています。「老後を変える 全国47都道府県大調査」の実施、産・官・学・民が連携し明るく豊かな人生100年時代に向けた議論を重ねる場づくりなど、さまざまな取り組みをしています。<https://www.metlife.co.jp/changerougo/about/>

メットライフ生命について

メットライフ生命は日本初の外資系生命保険会社として1973年に営業を開始し、現在は世界有数の生命保険グループ会社、米国メットライフの日本法人としてお客さまに常に寄り添い、最適な保障を選ぶお手伝いをしています。多様な販売チャネルを通じて、個人・法人のお客さまに対し幅広いリスクに対応できる、革新的な商品の提供に努めています。

<https://www.metlife.co.jp>

October 2, 2020
MetLife Insurance K.K.

MetLife Japan conducts nationwide ChangeRougo survey 2020 poll focuses on retirement preparation, mindset shift due to pandemic, and whether seniors have fulfilling lives

MetLife Insurance K.K. (MetLife Japan; President, Chairman and CEO Eric Clurfain) conducted its third annual survey of 14,100 men and women aged 20 to 79 from all of Japan's 47 prefectures about "rougo," or retirement. The findings of the survey are summarized below.

The 2020 survey focused on "change in attitude and preparation for rougo" and "shift in values and mindset in the wake of the coronavirus pandemic."

This annual survey is one of many initiatives under #ChangeRougo aimed to help people plan for a bright and prosperous post-retirement life. MetLife Japan is committed to taking the leading role in realizing a more confident future through products and services that meet the evolving needs of our customers in the era of the 100-year life.

Nationwide Edition

4. Attitudes toward rougo

- The vast majority (83.5%) of 14,100 respondents revealed that they are uncertain about their rougo. Respondents in their 60s and 70s reported 4.8% increase in concern year-on-year.
- Across all age groups, the primary cause of uncertainty in relation to rougo was the prospect of money, health and dementia. Respondents in their 60s and 70s showed concern in the order of "health," "dementia," "my need for nursing care," and "money."
- Nearly half (48.7%) of respondents felt more concern about their rougo due to the COVID. Leading causes of concern for respondents in their 20s and 30s were "job/education," following "money" and "health." "Nursing care of parent(s)" was the fundamental cause of concern for respondents in their 40s to 50s. The average cause of concern across all age groups, "how to spend leisure time," was ranked third overall as a cause for concern.
- Among all respondents, about 30% think the pandemic influenced their attitude toward retirement. Respondents in their 60s and 70s said they had "become more mindful of their health", "wanted to cut down on their cost of living", and "had an increased sense of the need to save money". People in their 20s to 50s also reported feeling an "increased need to save", followed by an "increased mindfulness of health" and a "need to cut down on the cost of living".

5. Preparation for Rougo

- Most respondents (61.4%) said they are "regularly saving" or "saving but not systematically" in preparation for rougo. The number of people who answered in this way is growing compared to 54.2% in 2018 and 56.4% in 2019.
- Compared to 2019, people currently now have more financial assets across all age groups. People have a slightly higher expectation of "how much is necessary to support their retirement". Overall average is about ¥30 million, which is ¥740,000 higher than 2019. Particularly those in the 20s and 60s-70s estimated about ¥2 million higher than 2019.
- More than 30% of those in their 30s and older are investing assets. In total, 56.7% expressed an intention to invest going forward, compared with about 70% in the younger generations in their 20s and 30s.
- About 20.1% of all respondents answered that the pandemic served as a wake-up call to invest.

6. Ingredients of Fulfilling Lives for Seniors

- We asked 4,816 people in their 60s and 70s about how fulfilled they are in life, and asked their self-assessment scoring. The average was 68.7 points. Those who had scores higher than average (70+ points), and enjoying the fulfilling lifestyle, tended to have taken action in three areas of “save financial assets and invest in preparation for Rougo,” “stay mindful of health and exercise,” and “have a purpose for living (hobby, a social network).”

By Prefectures

The following prefectures had high scores:

- “Concerns about rougo” was highest in Fukushima at 92.6%, followed by 88.7% in Ishikawa, 88.5% in Hokkaido, 87.6% in Akita and 87.2% in Tochigi.
- “Concern around rougo heightened by pandemic” was 57.4% in Nagasaki, 56.0% in Mie, 55.6% in Gifu, 53.9% in Fukushima, and 53.8% in Oita.
- “Already investing assets” was highest in Tokyo (39.6%), followed by 37.7% in Kanagawa, 37.2% in Hyogo, and 35.5% in Ibaraki, and 35.2% in Kyoto.
- “Intend to invest assets” was highest in Tokyo (65.3%), followed by 63.5% in Okinawa, 60.8% in Kanagawa, 60.1% in Osaka, and 59.6% in Shiga.
- “Having a fulfilling senior life” was highest in Chiba (73.7%), followed by 73.2% in Kumamoto, 73.2% in Miyazaki, 72.7% in Iwate and 72.4% in Ishikawa.

END



For Immediate Release | Public Relations | MetLife Insurance K.K.

#ChangeRougo Initiative

Under #ChangeRougo, MetLife Japan aims to ensure that people can be healthy and prosperous in their golden years, enabling anyone to aim for a bright and prosperous retirement. To help bring about a bright and productive super-aging society, MetLife Japan conducts a variety of initiatives including the #ChangeRougo survey and creating opportunities for cross-sector collaboration and dialogue in the Era of the 100-year Life.

<https://www.metlife.co.jp/changerougo/about/>

About MetLife Insurance K.K.

MetLife Japan started operations in 1973 as the first foreign life insurance company in Japan and currently operates as a Japanese corporation and an affiliate of MetLife, Inc., a leading global financial services company that aims to help people become more self-reliant and able to pursue more from life. MetLife Japan provides a broad, innovative range of products through diverse distribution channels to individual and institutional customers.

For more information, visit <https://www.metlife.co.jp>